

# 令和7年度公立高等学校入学者選抜

## 後期選抜 学力検査問題

# 国語

### 注 意

- 1 検査係員の指示があるまで、問題冊子と解答用紙に手をふれてはいけません。
- 2 問題は【問二】から【問五】まであり、問題冊子の2～9ページに印刷されています。10ページには、下書き用の枠があります。
- 3 問題冊子とは別に、解答用紙があります。解答は、**すべて解答用紙の**  **の中に書き入れなさい。**
- 4 解答用紙にマスがある場合は、句読点、カギ括弧（「や」）などもそれぞれ一字と数えて書きなさい。
- 5 下書きが必要なときは、問題冊子のあいているところ、または10ページの下書き用の枠を使いなさい。

【問一】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。ただし、①～⑫は段落番号を示す。

① 現代人は時間に追われている。「僕には時間がない」「私、自分の時間が欲しいの」  
 こういうときの時間は、時刻と時刻の隙間を意味する。すなわち、何時から何時までの時間  
 なのである。

② ところが、そういう時間とはちがう時間がある。 **A**、眠っていて夢を見る。その  
 中で過ごす時間は、これを目覚めているときに換算すればわずか数秒であっても、夢を見て  
 いる者にとっては数時間であったり、数日間だったりする。

③ 映画館で久しぶりに面白い映画を見る。あつという間に二時間が経つ。 **B**、映画  
 のなかでは長い歳月が流れており、見ている自分もその時を共にしているのだ。大好きな人  
 を待つ時間は長く、会えばあつという間に三時間がすぎる。これは一体なんなのか。

④ 時は流れるというが、時刻は流れない。時刻とは時に刻み込まれた数字のことだからで  
 ある。流れる時は数値で表せない。時刻は表せる。

⑤ この二つを混同するなど叫び続けたのが、二〇世紀前半を代表する哲学者のひとり、  
 ヘルクソンであるが、ベルクソンと同じ時代のフロイトは無意識の世界を発見し、無意識の  
 世界では時が一律に進行していないことに気づいた。時が一律に進行するのは時計の上での  
 ことであつて、日常生活はそれに依拠しているものの、私たちの精神活動は無意識の上に  
 成り立っているから、私たちは別の時を生きていると見たのだ。ベルクソンとフロイトは、  
 まったく異なる方向から同じところに辿り着いたといえる。

⑥ 一律の時間という考え方は近代哲学の代表格カントのもので、カントは私たちに  
 生まれつき時間と空間の認識能力があり、その時間と空間は一律で、これは万人に与えられ  
 ていると見た。これに対しベルクソンとフロイトは、精神においては空間も時間も一律では  
 なく、一律の時間なるものは数値化するのに都合よく構築されたものであつて、それ以上の  
 ものではないと主張したのだ。この二人は互いに知ることはなかったが、両者とも哲学と  
 科学における従来の時間論を打ち砕こうとした点で共通する。

(1) 文章中の……線部のよみがなを、ひらがなで書きなさい。

- ① 与え      ② 構築      ③ 互い  
 ④ 寝る      ⑤ 突如      ⑥ 聴衆

(2) **A**、**B** に当てはまる言葉として最も  
 適切なものを、次のア～カから一つずつ選び、  
 記号を書きなさい。

- ア だから      イ あるいは      ウ ところが  
 エ たとえば      オ では      カ および

(3) ④～⑥段落の内容を次のようにまとめた。

**C**、**D** に当てはまる最も適切な言葉を、

④～⑥段落中からそれぞれ指定された字数で  
 抜き出して書きなさい。

カントの時間論に対して、ベルクソンは、フロイト  
 と同じように「精神においては空間も時間も一律で  
 はない」と考え、「**C**(三字) できる時刻と、  
**C** できない **D**(四字) を同じように考えて  
 はならない」と主張した。

(4) —線部①とあるが、筆者がこう思った理由を、次の  
 ように説明するとき、**E** に当てはまる適切な  
 言葉を、文中の言葉を使って、二十字以上三十字以内  
 で書きなさい。

7 さて、ベルクソンの時間論は記憶の問題と関係する。私たちの記憶には、生活のための記憶と、精神の奥深く刻み込まれた記憶がある。生活のための記憶とは、寝る前に車のキーを携帯電話と一緒に茶卓の上に置いたことを翌朝覚えていたといった記憶で、歳をとるとこういう記憶が衰える。一方、精神の奥深く刻み込まれた記憶は、幼少期の楽しい一日のことが突如よみがえるといった記憶で、このような記憶のよみがえりは、いつべんに時間が吹っ飛んだような感じを与えるのだ。

8 過去が現在となって現れ、人はその過去を現在として生きる。フロイトもベルクソンもこの後者の記憶を大切にし、そこに精神というものの本質があると見た。

9 私の住む町の駅前広場では、毎週末に若者がやってきて勝手に歌を歌う。大体が聴くにたえないほど下手くそだが、近ごろ「こいつはなかなかやる」と思わせるのが現れた。思わず立ち止まって、二曲ほど聴いた。高校生ふうの男子であった。

10 聴いていると、これまた高校生ふうの女性が小さな紙切れを、数人しかいない聴衆に配布する。私も一枚もらったので中を覗くと、歌の歌詞である。そうか、自作自演なんだとわかった。

「今朝も爽やか 陽がのぼる 呼吸をすれば 山ひかる 同じ朝日を 何度見た？」

11 今どき珍しい七五調だ。そう思って目を先に走らせると、驚くような歌詞である。

「時は不思議だ おお不思議 父と一緒に 初日の出 その思い出が よみがえる よみがえったのは 餅の味 姉とたらふく 食べた味」

12 これを読んだとき、ベルクソンはここにも生きていると思った。

(大嶋 仁「一日10分の哲学」問題作成上ふりがなをつけた箇所がある)

\* (注) ベルクソン＝哲学者のアンリ・ベルクソン(1859～1941)

フロイト＝心理学者・精神科医のジークムント・フロイト(1856～1939)

依拠＝よりどころとなるもの

カント＝哲学者のイマヌエル・カント(1724～1804)

歌詞の内容が、E が起こったという体験をもとにしたものであるという点で、ベルクソンが考える「精神」というものの本質がある」と思ったため。

(5) 本文における筆者の論じ方の工夫と効果についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア データを用いることで、一般的な意見に対する反論の説得力を高めている。
- イ 体験や、具体例を挙げて説明することで、話題を身近なものにしている。
- ウ 実際に見聞きした歌詞を引用することで、新たな疑問につなげている。
- エ 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

(6) 線部について、クラスで話し合っている。鈴木さんは、次のように考えた。

「過去が現在となって現れ、人はその過去を現在として生きる」とは、過去がふとよみがえることがあって、それが現在の自分の思いに影響を与えて、行動につながるということを言っているのではないか。

——線部②、③、④について、身近な例を用いて説明し合うことになった。あなたならどのように説明するか。次の〈条件〉に従って、六十五字以上八十五字以内で書きなさい。

〈条件〉 本文と異なる例(「作詞すること」以外)を用いて、——線部②、③、④を具体的に書くこと。

【問二】 山中さんの学級では、語彙を豊かにすることを目的として、新しく知った言葉や気になった言葉を記録する活動を継続している。国語の時間に、各自がこれまで記録した言葉をグループで紹介し合い、気づいたことについて話し合った。次の【Ⅰ】～【Ⅲ】を読んで、下の各問いに答えなさい。

### Ⅰ 話①～⑤

山中 今日、「本来とは異なる意味で使われることがある言葉」について話し合うことになっていたね。まずは各自が調べてきた言葉を紹介していこう。

小林 私は「失笑する」という言葉を調べたよ。「笑えないくらいあきれれる」という意味で使っているけれど、本来は「おかしくてふきだしてしまふ」という意味だったんだ。調べるうちに、「失」には「うっかり外へ出す」という意味があることが分かり、納得できたよ。

今村 なるほどね。私は「号泣する」という言葉を調べたよ。「激しく泣く」という使われ方が多いけれど、本来は「大声をあげて泣く」という意味だそうだよ。それは、「号」に「大声を出す」という意味があるからだと分かったよ。

小林 「号」にそんな意味があったなんて知らなかったな。

高木 言葉を構成する漢字の意味を知ると、その言葉の本来の意味について理解が深められるんだね。でも、そうした言葉がなぜ本来とは異なる意味で使われるようになったか気になるな。

山中 たしかにそうだね。そのことについて各自調べて、次回話し合ってみようか。

### Ⅱ 二回目の話①～⑤

山中 今日は、前回の話し合いを受けて、「失笑する」や「号泣する」などの言葉が、「**A**」という疑問について話し合ってたね。早速、共有していこうか。

小林 私が読んだ本によると、「失笑する」は、「笑いを失う」と捉える人が増えて、「笑えないくらいあきれれる」という意味での使い方が広まっていったそうだよ。

高木 たしかに私も「失」は、「うしなう」という意味で捉えるよ。多くの人がそうではないかな。その言葉を構成する漢字の意味の捉え方が違うことによって、その言葉の使い方が変化してきたということだね。

今村 私も本で「号泣する」を調べたけれど、週刊誌やテレビ番組などが、誰かの激しく泣く様子を、声の有無にかかわらず「号泣する」と表現し始め、それが次第に一般にも使われるように

(1) ———線部の高木さんの発言は、話し合いの中でどのような役割を果たしているか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

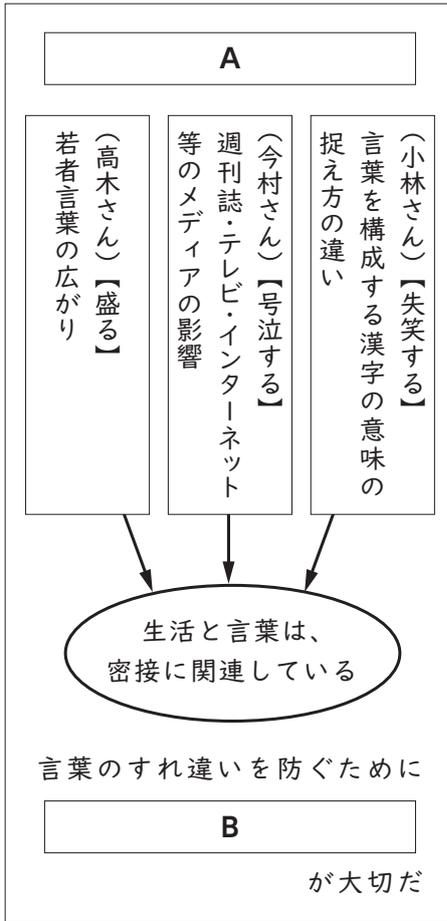
- ア これまでの発言の内容を要約する役割。  
イ 出された疑問点を改めて整理する役割。  
ウ わかりやすい表現になるよう工夫を促す役割。  
エ これまでの発言を受けて話題を転換する役割。

(2) Ⅱ、Ⅲの **A** に共通して当てはまる言葉を、Ⅰから二十三字できがし、最初の五字を書きなさい。

(3) Ⅱの特徴として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア 肯定、否定の立場を明確にし、両者の共通点を捉えながら、一定の結論に達している。

イ 自分の経験のみを根拠に自由に発言し合い、考えを広げたうえで、一定の結論に達している。



Ⅲ 二回目の話し合いで山中さんがとったメモ

山 中 たしかに、テレビやインターネットなどのメディアの影響は大きいよね。  
 高 木 私が調べた本では、「盛る」という言葉も、本来とは異なる意味で使われる言葉として取り上げられていたよ。本来は「高く積み上げる」という意味だけれど、「よく見せようとする」という意味が若者の間で使われ始めたことがきっかけで、その若者言葉が今では辞書に載るくらい広がったそうだよ。

小 林 私も「よく見せようとする」という意味で使ったことがあるよ。  
 今 村 言葉を構成する漢字の意味の捉え方が違うこと、メディアの影響、若者言葉の広がりによって、言葉に新たな意味が加わっていくということだね。つまり、私たちの生活と言葉は密接に関連していると言えそうだね。

小 林 なるほどね。一人一人の生活は様々だから、言葉の使い方も少しずつ違う可能性があるということかな。そう考えると、自分の意図が相手に正しく伝わらないことがあるのかもしれないね。  
 今 村 私も今まで、正しく伝えられなかったり、正しく受け取れなかったりしたことがあったかもしれない。そうした言葉のすれ違いを防ぐために、相手の反応をよく見る必要があるよ。  
 高 木 そうだね。それに、自分の使う言葉を相手に合わせて選ぶことも大切にしたいな。  
 (∴話し合いは続く)

ウ 互いの発言に同意しながら話し合いを進め、共通点を捉えて、一定の結論に達している。  
 エ 必要に応じて質問し合いながら話題を焦点化し、一定の結論に達している。

(4) Ⅲの → は、何と、何を結び付けているか。  
 最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 話し合いで出された三つの問いと、答え。
- イ 話し合いで出された三つの仮説と、検証方法。
- ウ 話し合いで出された三つの意見と、反論。
- エ 話し合いで出された三つの具体と、抽象。

(5) Ⅲに当てはまる適切な言葉を、Ⅱの中にある言葉を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

【問三】 次の①～③から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ抜き出して書き、同じ読みの正しい漢字を楷書でそれぞれ書きなさい。

- ① 教授は、難病を治す薬をつくりだすという階拵を成しとげた。
- ② 災害に備え、保存食が痛まないように貯蔵しておく。
- ③ 海岸に沿って港へむかう観側船を、灯台からながめた。

【問四】 次の文章Ⅰは、『無名草子』の一節、文章Ⅱは、『京師得家書(京師にて家書を得たり)』という漢詩である。これらを読んで、下の各問いに答えなさい。

文章Ⅰ

この世に、いかでかかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文こそはべれな。  
 どうしてこんなことがあったのだらうと、すばらしく思われることは、手紙ですよ。

① 「枕草子」に返す返す申してはべるめれば、こと新しく申すに及ばねど、なほ  
 繰り返し述べているようです。 今さら改めて申すまでもないのですが

いとめでたきものなり。 はるかなる世界にかき離れて、幾年あひ見ぬ人なれど、  
 遠い土地に

文といふものだに見つれば、ただ今さし向かひたる心地して、なかなか、  
 さえ たった今 向かい合っている かえって

うち向かひては思ふほども続けやらぬ心の色もあらはし、言はまほしきことをも  
 直接顔を合せては意のままに表現ささない 言いたいこと

こまびと書きを尽したるを見る心地は、めづらしく、うれしく、あひ向かひたるに  
 面々向かい合っている

劣りてやはある。  
 劣ってはなご

(1) 線部の言葉を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

- ① あらはし
- ② めづらしく

(2) 線部①とあるが、文章Ⅰにおいて、筆者が、「枕草子」に繰り  
 返し述べられており、改めて申すまでもないと考えていることは、  
 どのようなことか。十五字以内の現代語で書きなさい。

(3) 線部②とあるが、筆者が手紙についてこのように考える理由と  
 して最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 手紙は、過去を理想化して後世に書き残せるものだから。
- イ 手紙は、いつ読んでも当時の情感が残っているものだから。
- ウ 手紙は、書き方の作法が昔のまま変わらないものだから。
- エ 手紙は、読めば退屈なときに時間をつぶせるものだから。

(4) 文章Ⅱの漢詩の形式を、漢字四字で書きなさい。

つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは、ただその折の心地して、いみじく昔の知り合い  
ただ  
とても

うれしくこそおぼゆれ。

何事も、たださし向かひたるほどの情ばかりにてこそはべるに、これは、ただただ向かい合っている間の情感だけですが  
全く

昔ながら、つゆ変はることなきも、いとめでたきことなり。  
少しも

(問題作成上二部省略した箇所がある)

## 文章Ⅱ

京師<sup>ニテタリ</sup>得<sup>ニ</sup>家書<sup>ヲ</sup> 袁凱

江水三千里

家書十五行

行行無<sup>シ</sup>別語<sup>一</sup>

只道<sup>ダ</sup>早還<sup>ク</sup>郷<sup>ニ</sup>

(書き下し文)

京師にて家書を得たり 袁凱  
都で家族からの手紙を手にして

江水三千里  
遠く川の水を隔てて三千里のななから

家書十五行  
わずか十五行

行行別語無し  
どの行もどの行も

只道早く早く郷に還れと  
ただただいっばかり 故郷 帰れ

\* (注) 三千里は作者の故郷までの距離が非常に長いことのとえ

十五行は当時の便せん二枚分。当時の便せんは、一枚八行だった

(5) 文章ⅠとⅡを読み比べた生徒が話し合っている。

藤井 手紙の書き手や読み手の思いについて考えてみよう。

津田 文章Ⅰには、手紙を読むと、距離や時間の隔たりを感じる  
ことなく、まるで書き手がすぐそばにいる気がする  
という、読み手の思いが書いてあったね。文章Ⅱの「家書」  
は、故郷を遠く離れ、都で役人となっていた袁凱の元に  
届いた家族からの手紙だけど、袁凱は、この手紙を読んで、  
どんな思いをもったのだろう。

藤井 今と違って簡単に連絡が取れない時代に、ずっと会えて  
いない遠い故郷に住む大切な家族から、送られてきた手紙  
だよ。それなのに、文章Ⅰの、「言いたいことがこまごまと  
書き尽くされた手紙」とは、対照的な書き方だね。

津田 確かに。文章Ⅱの手紙の書き方だからこそ、書き手の一途な  
思いが伝わり、袁凱も A の思いが高まって、この詩が  
生まれたのかな。

藤井 今は思いを伝える様々な手段があるけれど、文章ⅠとⅡを  
読んで、離れていても、思いをやり取りする大切さは、昔も  
今も変わらないんだなと思ったよ。

i — 線部③とあるが、この「書き手」とは誰のことか。文章Ⅰ  
から二十一字でさがし、最初の五字を書きなさい。

ii — 線部④とあるが、袁凱の元に届いた「家書」の書き方の  
特徴について、「家書」に書かれていたことを明らかにしたうえ  
で、二十五字以上三十五字以内の現代語で書きなさい。

iii A に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の  
ア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

〔ア 送別 イ 自然賛美 ウ 望郷 エ 無常〕

【問五】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

大学生の青山霜介（僕）は、水墨画の巨匠篠田湖山の弟子となって三年間、ほぼ毎日、数時間の水墨画の練習を続けていた。しかし、ある展覧会の準備中の事故で、霜介は、利き手である右手にけがを負い、水墨画を描くことができなくなってしまう。次第に右手は動くようになったが、感覚は戻らず、描くことを諦めようとする。事故からしばらくして、自宅にお見舞いに来た同じ湖山門下の篠田千瑛に連れられ、着いたのは大きな神社だった。

「お参りするの?」

「それもいいけど、目的はもう少し先にある。ついてきて」

\*玉砂利を踏んで参道を横切り、幾つものテントが並ぶ一角に来た。人が集まり声をあげている。穏やかな足音が幾つも聞こえる。

懐かしい匂いが微かに漂う。

香りにつられて感覚が研ぎ澄まされていく。ほんの少し前なら簡単に言い当てられたのに、言葉がそこに追いついてこない。

「心が萎れてしまったときには、少しだけ預けてしまおうといよ」

彼女はそう言って角を曲がった。そこには、無数の菊が棚に並べて咲き誇っていた。

「菊祭り?」

「そう、菊を描いていたときはこの時期になるとよく来た。湿った優しい香りがするよね」  
 僕らはさっきの半分以下の速度で歩き始めた。白や黄色や紫の大ぶりの菊が小さな花火のように咲き誇っている。賞をもらっている菊も多く、花卉の広がりや重さが目を通して感覚に飛び込んでくる。

この菊の花びら一枚、穂先でなぞれば、どんな軌跡になるのだろうか。

思い描く瞬間が無数にあり、その度に右手の感覚を思い出していった。

花のすべての線を記憶しようと思が走っていく。二年前、四君子の卒業画題である菊花を習得するため何度も繰り返し描いていた所作が身体や意識の在り方にまでこびりついている。絵師である僕が、僕の中で動き続けていた。それは自転車に乗ると自然とバランスをとって走り出すことと同じだ。そこに佇めば、頭も身体の中の感覚も動いていく。ただ心だけを残して、意識は架空の絵を作り上げていく。

目の中に浮かび消えていく無数の絵が、頭の中で描き上げられた次の瞬間、別の花に意識が飛び、また新しい花を作り始める。

目の前にある景色は、絵ではないけれど、誰かが作り上げた名画の中を歩いているようにさえ思える。花は白や黄色や紫、葉の色は濃緑や黒や黄色なのに、意識に浮かんでいるのは黒白だった。\*モノトーンの柔らかさで色彩を眺めている。

① 絵を見ていることと、まるで反対のことが、現実の花の中で起こっていた。

(1) 線部A、Dのうち、品詞が他と違うものを一つ選び、記号を書きなさい。

(2) 線部①について、生徒が話し合っている。E、Fに当てはまる言葉として最も適切なものを、あとのアから一つずつ選び、記号を書きなさい。

佐藤 「絵を見ていること」って、どういうことなのか。田中 「絵」は水墨画のことだよ。直前の二文から考えても、目の前の菊の色彩を、Eに変換して、水墨画として見ているということではないかな。

佐藤 なるほど。では、それと「まるで反対のことが、現実の花の中で起こっていた」というのは、「僕」が、目の前の菊の色彩を、F色彩として意識し始めているということだね。

- |   |        |   |         |   |     |
|---|--------|---|---------|---|-----|
| ア | 白や黄色や紫 | イ | 濃緑や黒や黄色 | ウ | 黒白  |
| エ | 名画の    | オ | そのままの   | カ | 架空の |

(3) 線部②の「僕」の意識について、「その一輪」以外の菊を見ていた「僕」の意識と比較しながら、次のようにまとめた。Gに当てはまる最も適切な一文を、本文中から二十文字でさがし、最初の五字を書きなさい。

それまでは、「花のすべての線を記憶しようと思が走っていく」や「目の中に浮かび消えていく無数の絵が、頭の中で描き上げられた次の瞬間、別の花に意識が飛び、また新しい花を作り始める」などとあるように、Gしかし、ここでは、一輪の「白く乱れた菊」に立ち止まり、心がひきつけられている。

普段、菊を見ているそんなふうには感じないのに、どうしてそう思うのかと探っていくと、一輪の花の前で足が止まった。

その花は、テントの脇に追いやられ、他の花の陰に隠れていた。背丈は低く、花もやや小ぶりで葉の形も他の物のように整っていない。他の物よりも一段落ちる作りであることは一目瞭然で、花に花を添えるために隠されているのだと気づいた。

② 白く乱れた菊だった。

僕はその一輪に目が吸い込まれていった。

「どうしたの？」彼女が隣に立った。

「この白い菊、見栄えがしないなと思って」

「そうね。これだけ立派な菊がならんでいたらね。形も大きさも、不揃いなものね」

「左右がアンバランスで、葉もところどころ欠けていて、花も斜めに咲いている。まっすぐにはなれない」

「そうね、何かが少し足りない」

「まるで、僕みたいだ」

「あなたは……」彼女が一步近づいた。

「いや、心が落ち着くんだ。悪い意味じゃないよ。何かが欠けていることで満たされるものもあるんだな、と。不完全だと思っていたものが、実は完全なことがあるのかもしれない」  
彼女と目が合った。猫のように大きく目を見開いている。空の鮮やかな青が黒い瞳に鮮やかに張られている。

「私は同じものを見ても、そうは思えない。美しいものや形を探してしまう」

「僕だってそうだよ」

「でもあなたはこの花を美しいと思うんですよ」

「別に整ったものだけが美しいわけじゃない。美しいものだけが、ただ美しいわけじゃないって思っただ」

どう説明すれば伝わるのか、彼女の瞳を問いかけるように見つめた。疑問を浮かべたときの彼女の表情がまるで子どものもので、どうしても伝えたくなくなったのかもしれない。

「心を重ねられるものは別に、完成されたものじゃなくてもいい……、気がするんだよ」

思いついたことのすぐ近くをかすめるように話していた。うまく説明できていないことは分かっていたけれど、それほど間違っていないことも分かっていた。曖昧に伝えなければ言い当てられないこともある。ここに絵があればと思わずにいらなかった。

③ (砥上裕将「一線の湖」問題作成上ふりがなをつけた箇所がある)

\*注 玉砂利 粒が丸く、やや大きい砂利 四君子 梅・竹・蘭・菊のこと。東洋画の画題とされる

モノトーン 色の配色が、単色の濃淡・明暗で構成されること。特に黒・白・グレーなどの無彩色だけで構成されているさま

(4) 本文中における……の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア 千瑛が「僕」を神社に連れてきた目的が、この「白く乱れた菊」であることを、読者に明らかにする役割。

イ 「白く乱れた菊」の様子とともに、並んでいる菊がいかに見事であるかを、読者に想像させる役割。

ウ 千瑛の「白く乱れた菊」に対する感じ方に、「僕」の感じ方が迫っていくことを、読者に予感させる役割。

エ 「白く乱れた菊」に対する「僕」の感じ方が、今までにない一面であることを、読者に印象付ける役割。

(5) この文章の表現上の特徴として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア 比喩を多く使うことで、登場人物の様子や、場の情景をいきいきと表現している。

イ 現在と回想場面を交互に書くことで、物語の展開の奥行きや複雑さを表現している。

ウ 水墨画を描く「僕」を、菊の様子と重ねて描写することで、「僕」の創作への意欲を表現している。

エ 「僕」の言葉に漢語を多く使うことで、「僕」が深く思い悩んでいる様子を表現している。

(6) 線部③とあるが、このときの「僕」の気持ちを、心形、完全なこと、絵という言葉を使って、五十字以上七十字以内で書きなさい。

(6)			
50	20		
70	40	10	
60	30		

【問五】  
(6)

(6)			
80	65	50	20
85	70	40	10
60	30		

【問二】  
(6)

※下書き用の枠

これより先に問題はありません。  
下書きなどが必要なときには、自由に使用つかまいません。



